

寶林精舎

《題字・森神紫陽》

平成21年初盆のお家

喪主	続柄	故人名	命日	享年	地区名
甲斐辰巳	妻	喜久恵	20年 7月13日	86才	上直見・江河内
吉良山由美	父	重士	7月28日	72才	仁田原・萱垣
園田和可子	養母	ツヤ子	8月1日	91才	仁田原・上の地
山田桂子	母	タマコ	8月15日	89才	蒲江・尾浦
御手洗利美	母	シズエ	8月24日	84才	佐伯・野岡町
高須賀博志	父	芳包	9月10日	93才	蒲江・畑野浦
小田木智通	母	フミ子	9月16日	97才	仁田原・細川内
矢野俊行	父	晴雄	10月7日	91才	赤木・中道
吉内達也	父	武	10月20日	79才	下直見・江河内
簀戸猪文	母	テル子	11月14日	88才	仁田原・岸の上
三根千鶴	妹	林礼子	12月4日	43才	佐伯・城東町
山下繁彦	母	嘉誉子	12月28日	77才	横川・黒岩
甲斐典昭	母	八重子	21年 1月8日	86才	下直見・道越
柳井道則	母	良子	1月22日	85才	赤木・中道
小野浩伸	母	奈都子	2月3日	86才	仁田原・細川内
三股忠芳	義母	谷崎サカエ	3月3日	93才	佐伯・常盤東町
谷崎博文	祖母	マツ	4月5日	93才	上直見・園
簀戸茂一	父	邦元	4月11日	98才	仁田原・岸の上
鳴海浩一郎	母	瑩子	4月18日	63才	佐伯・野岡町
小野一人	祖母	サダ子	5月7日	79才	下直見・江河内
安藤義博	父	博基	5月22日	77才	上直見・久留須
後藤廣	父	久士	5月31日	84才	宇目・千束
吉田君江	夫	孝次	6月24日	74才	佐伯・新女島区
飛田芳海	父	傳作	6月24日	62才	仁田原・杭の内
廣瀬正也	父	博信	6月26日	76才	赤木・堂師
小野一人	祖父	義政	7月21日	82才	下直見・江河内

※小野一人家は祖父母お二人の初盆を行います

※7月22日現在



第50号

正定寺花園会広報

平成21年夏発行 発行所 一部単価135円(非売品)

檀信徒数 直川地区:253戸 直川地区外:147戸

〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972(58)2190 FAX0972(58)2192

URL <http://syoji.com/> e-mail shoji@saiki.tv

住職 小原寿山

〈家族みんなで読みましょう〉

☆平成21年お盆参りの日程☆

昨年とは日程や地区順が違います。お確かめください。

月 日	曜	日 柄		開始時間～終了時間	地 区
8月1日	(土)	盆入り	路作り盆	午前9時～午後6時	細川内⇒道の内⇒吹原⇒ 中津留(赤木)⇒野の内
8月2日	(日)	塚日		午前9時～午後6時	栗林⇒向船場⇒水口⇒間⇒ 本匠⇒弥生
8月3日	(月)			午前9時～午後6時	内水⇒杭の内⇒椈ヶ原⇒下城
8月4日	(火)			午前9時～午後6時	柚の原⇒黒岩⇒横川⇒羽木⇒ 蝮の崎⇒川又
8月5日	(水)	塚日・友引	煤掃き盆	午前9時～午後7時	堂師⇒市屋敷⇒神の原
8月6日	(木)			午前9時～午後6時	大久保⇒萱垣⇒大鶴⇒学校下 ⇒神内
8月7日	(金)	井戸・墓掃除 立秋	池替盆	午前9時～午後6時	竹の下⇒園⇒下中津留(上直見) ⇒間庭⇒江河内
8月8日	(土)			午前9時～午後6時	旧市内A⇒宇佐⇒別府市
8月9日	(日)			午前9時～午後6時	大分市⇒臼杵
8月10日	(月)			午前9時～午後7時	長野⇒立箱⇒新中⇒久留須
8月11日	(火)	友引	花取り盆	午前9時～午後7時	天津留⇒用來⇒寺の下⇒岸の上 ⇒上の地
8月12日	(水)			午前9時～午後6時	宇目町⇒三重⇒延岡市⇒日向市
8月13日	(木)	精霊迎え盆	草刈り盆	午前9時～午後7時	畑の浦⇒尾浦⇒鶴見⇒木立⇒ 旧市内B地区
8月14日	(金)	盂蘭盆		午前9時～午後6時	旧市内C地区
8月15日	(土)	盂蘭盆・ 精霊流し		午前10時～	直川内初盆各家(前ページ参照)
8月16日	(日)	精霊送り盆			
8月17日	(月)	盆明け			

お盆期間中のお知らせ

- ① 本年は和尚一人でお参りを致します。始まりと終わりの時間はだいたいの目安にして下さい。
- ② 昼休み(昼食時)にお参りする場合がありますのでご承知ください。
- ③ 葬儀や天候の都合で日程を延ばす場合は、午前9時までに地区世話人様にご連絡致します。
- ④ 直川内で雨天(大雨)の場合、足袋・衣が濡れていて、皆さまにご迷惑をお掛けします。座敷に上がらず、草鞋・合羽でお参りを致します。(軒先でのお勤めを致します。)
- ⑤ 台風などの延期に伴い14日の地区が16日以降に成ることが有ります。
- ⑥ 留守の家は外からお経を上げさせて戴きます。
- ⑦ 1日～16日の間は、盆中のため本堂を会場にしての葬儀が出来ませんので葬儀の場合は「自宅」もしくは「公民館」や「斎場」で行うようにご協力ください。又、伴僧(役僧)の手配が難しい場合がありますのでご了承ください。

〈家族みんなで読みましょう〉

感謝の気持ちを存分に伝えたい

アメリカ合衆国ミシガン州 柳井正道 (35才)

今年の一月に祖母が他界しました。

去年から祖母の状態も徐々に悪くなっており、元気なうちに出来るだけ会っておこうと考えていました。父からも、葬式はこっちでやれるから、生きてるうちに帰ってやってくれ、と言われてた事もあり亡くなる寸前まで入院の付き添いに行く予定を立てていました。

その準備の最中に訃報を受け、年甲斐もなく声を出して泣いてしまいました。祖母がもう亡くなるということは理解はしていたのですが、気持ちには全く受け付けない状態には無かったようです。飛行機の予約は取っていたのですが、もう亡くなったのなら帰っても仕方がないとも考えていました。

しかし、祖母への供養をしたいという気持ちに加え、両親のことがとても心配になり帰国することにし

ました。

ユダヤ教のラビが書いた本ですが「なぜ自分だけが苦しむ、のか」という本の影響もあつたのかなとも思っています。この本は、よくホスピスなどの医療関係者必読の書といわれている本だそうです。そこからの私の理解から、悲しく苦しいであろう私の家族にたいして「そばにいること」、そして「話を聞くこと」が、自分が行動に移せる唯一のことだと思つたのです。（うちの祖母の生きてる間にも、そのような気持ちで行動したつもりですが、十分だったのかはわかりません）

そして帰ってみると、地区の人々や親戚一同が祖母のために悲しんでくれました。そして、その輪の中に入ると、自分自身の悲しい寂しい気持ちの中で、なんともいえない一体感という物を感じました。家族の為と思つて帰国したが、結局自分自信がみんな

に救われていることを実感しました。心がその場にいろ人々とシンクロしているような暖かく不思議な感覚です。

上記の本に引用されていたのですが、デュルケムという社会学者が南の島での土着の宗教を研究することで、宗教の本来あつた目的というのは人と人とを互いに結びつけることにあるという結論に至つたそうです。というのも、土着の宗教は、まだ神さまとかそういう概念はなく、人と人とを結びつけることで、大きな脅威や災難、悲しみに対して一人で立ち会わずにすむからだそうです。

今思うと、このとき感じたこの不思議な感覚は、そういういった私たち家族と地域の人々を結びつける物だったのかなとも思います。こういういった観点からも、やはり、地域の宗教を知り、それと共に年を重ねることに重要性を感じずにはいられ

ません。

今年の夏は帰国して祖母の初盆を迎えたいと思います。葬儀の慌ただしさとは違うもう少し落ち着いた気持ちで祖母と過ごした時間を振り返ってみたいです。祖母は今頃は久しぶりに祖父と会えて喜んでるかと思ひます。もしかしたら、また祖父の世話という大仕事が増えて元気なときのように飛び回っているのかもしれない（笑）そして、祖母がお盆に帰ってきたら、病中は直接伝えることができなかった感謝の気持ちを存分に伝えたいと思います。



祖母とのスナップ

〈家族みんなで読みましょう〉

お盆のあれこれ

8月13日

迎え盆
草切り盆

8月13日を「草切り盆・迎え盆」と呼びます。
牛馬を飼っていた頃、日が明けぬ朝早くから野山に出かけ、牛馬のエサ(草)を刈りに行った経験は有りませんか。
盆の間は、大切にご先祖さまをお迎えするので牛馬の世話をしなくて済むようにと、たくさんのおエサを蓄えるこの日を「草切り盆」と言います。

迎え火

早めにお墓にお参りして、夕刻になると「迎え火」を灯します。この「迎え火」を門火・庭燎とも言います。
日没に自宅の門口で目印の松明を焚きご先祖を迎えます。松明の代わりに縁側に提灯を灯すところもあります。
古くは、提灯に火を灯してお墓までご先祖さまをお迎えに行っていました。間違つて14日にお迎えに行っているお家がありますが、ご先祖さまのお帰りは13日ですよ。

洗い桶

13日の夕刻には、縁側の戸を開けて、帰ってこられたご先祖さまの足を洗うための「洗い桶」を用意します。
供養されない迷った霊は「お化け」といい、足が有りませんが、ご先祖さまは皆さまから供養されているので足が有ります。翌朝、『洗い桶の水が濁っている』と言うのは、ご先祖さまがお帰りになった証かも知れません。

ご縁

さて、ご先祖さまが縁側から帰って来るには理由があります。みなさんの家で、生涯を過ごす大切な方の出入り口は全て縁側を正式としていたからです。
みなさんも嫁いでこられた時、縁側から入ってきませんでしたか。
お嫁さんに出すときも、お嫁さんを迎えるときも縁側を出入り口としていました。
『うちの娘もご縁があって〇〇家に嫁ぐようになりました』とは、ここから出た言葉なのです。
生涯をその家で過ごし、人生の最終を迎えてお亡くなりになった時も、縁側から出棺して浄土へ旅立ちます。

胡瓜の馬

年老いて足腰が不自由で、帰って来るのが遅いご先祖さまもいるかも知れません。そこで、胡瓜に竹の足を付けて馬に見立て、お墓にお供えします。これを「胡瓜の馬」と言います。
「馬に乗って早く帰って来て」と願う気持ちからです。
又、どんなに遅い方でも13日中には戻ってこれると言われるので、縁側の戸を開めるのは13日の夜中12時過ぎ(14日)なのです。

香食

13日の夜中、全員のご先祖さまが戻られた頃、仏壇にお明かりを灯し線香を立てます。
線香の香りがご先祖さまの最初のおもてなしです。中国では「香食」と呼んでいます。香りが死者の食べものなのです。線香立ての灰もきれいにしておきましょう。
灯したろうそくが揺らぐと『ホラ！帰って来られた』と昔の人は言っていました。

8月1日

みちつくりぼん
路作り盆

8月1日を「盆入り」と呼びます。文字通りお盆の月に入った事を示します。又、お墓や墓道の草切りを始める日なので、「路作り盆」とも言います。
日本でのお盆は、推古天皇十四年(606年)の7月15日(中元)に行なったのが最初と言われています。現在の日本では、7月盆と月遅れ盆(8月盆)とあり、東日本は7月盆が多く、西日本では8月盆が多く見られます。九州でも宮崎や熊本・沖縄の一部を除いては、8月にお盆の行事を行っています。旧暦の7月15日に行なう地方もあります。

8月5日

すすきはぼん
煤掃き盆

8月5日を「煤掃き盆」と呼び、お盆の準備のために、家のスス払いや掃除をします。遠くで働く家族や親戚がお盆には戻ってきます。この日からそろそろお嫁さんは忙しくなります。

8月7日

いけかえぼん
池替え盆

8月7日を「七夕」・「池替え盆」と呼びます。
お盆が近づくこの日は、身の回りをきれいにする日とされています。昔から体を清るために沐浴(水浴び)をしたり、髪を洗ったり、牛馬に水浴びをさせたりしました。
水浴びを「ねむり流し・ねぶた流し」などと呼ぶところもあります。青森の「ねぶた祭り」もご先祖を迎える準備として、身の回りの「邪気(睡魔)」を追い払い清める行事です。
水に流すことで願い事を叶える風習は、7月7日の「たなばた」の行事からもうかがえます。
又、「池替え」とは井戸さらいの事で、井戸の掃除や墓の掃除から仏壇の位牌や仏具まで、きれいに洗い流す日とされています。中国では、墓参りを「掃墓」と呼びます。文字通り墓に付いた苔を取り掃く事です。新盆を迎える家は、この日から飾り付けを行います。新盆供養の盆提灯もこの日に間に合うように送ります。

8月11日

はなとりぼん
花取り盆

8月11日を「花取り盆」と呼びます。
お盆のお仏壇やお墓にお供えする花を準備する日の事です。
花は「檜・樺・シキミ」の事です。木偏に佛と書いて「シキミ」・木偏に神と書いて「サカキ」と読みます。仏さまにお供えする花は、「シキミ」・神さまには「サカキ」です。「シキミ」を「シキビ」と訛って私たちは呼んでいます。もともと、「シキミの木」は毒性が強く、土葬した遺体を野犬やおおかみ等の野獣から守るために、用いられました。お墓にシキミを供えるのはこうした理由からです。ヒノキなどの新芽を食べる鹿もシキミの新芽は口にしません。毒があることを知っているからです。この日に準備した花(シキミ)を水に浸し、花が充分に水を吸い上げた頃に、仏壇やお墓にお供えすると長持ちすると言います。

〈家族みんなで読みましょう〉

知ってましたか？



水の華

なすび等の生野菜・米・小豆などを混ぜた物を「水の華」又は「水の子」と言いお墓に撒いてあげます。餓鬼道に落ちた亡者は、十分な食べ物が与えられず、体は痩せ細り、喉は極端に細くなっていると言われます。喉が細いので「水の華」は、食べやすいように細かく刻んでいます。又、水の華や線香は残っても決して持ち帰りません。ご先祖さまへの供物は、亡き父・亡き母への供物です。持ち帰ると、「もったいない」と言う欲心があるように思われるからです。親への恩返しに損得はありません。昔の人は、「残った「水の華」に餓鬼が付いて来るから」とそれとなく戒めていました。

留守墓参り

お盆の間、誰からも供養されない餓鬼がご先祖さまがいない留守の墓に寄りついているので、ご先祖さまの代わりに、浮かばれない霊に供養するのが「留守墓参り」です。自分だけではなく他の人も救いたいと願う心は、お盆の由来そのものの教えです。禅宗では「まず他の人を救い、その功德で自らも救われる」と言う法要が有ります。これを「施餓鬼会」と言います。「情は人の為ならず」の格言と同じです。正定寺も江戸時代は、7月1日～15日の間は施餓鬼棚を設けて供養がなされていたと記録が残っています。現在は月遅れの8月1日～15日に各家へのお参りになり、「施餓鬼会」は9月の彼岸に法要がなされています。

精霊流し

西方丸と書いた小船に供養の品々を供え15日の深夜に川や海に流す風習を「精霊流し」と言います。ご先祖さまの霊は、「送り盆」の16日夜明けに、東から昇る太陽と共に西の西方極楽浄土に無事にお帰りになると言われています。16日送り盆の夜明け、沖に昇るお日さまに間に合うようにと15日の深夜に流します。直川村では、16日の早朝(夜明け前)にお供えした団子や果物などを川へ木板に乗せて流すのが一般的です。

8月16日

送り盆

8月16日を「送り盆」と言います。15日に送る家もありますが正式には16日です。

茄子の牛

茄子に竹の足を付け牛に見立てて仏壇に飾ります。これを「茄子の牛」と言います。牛に乗って「ゆっくり戻って下さい。」と別れを惜しむ風習です。

土産の団子

浄土へお戻りになるご先祖さまの「土産の団子」は、少しでも多く持ち帰りが出来るようにと、平らに作ります。丸団子では積み重ねが難しいからです。又、多く担げるようにと「じがるい豆」と言う細長い豆もお供えします。この豆は、東ねたり又担ぎ籠の縄となるように持たせます。

送り火

16日の日没にお墓で松明を灯します。この火を「送り火」と言います。ご先祖がお帰りになる場所を示す目印の明かりです。歩くのが遅いご先祖さまも日が沈む頃には無事にお帰りになると言われています。京都の大文字焼きは「送り火」の事です。これで、3泊4日の里帰りが終わります。

盂蘭盆

8月14日・15日

8月14日と15日を盂蘭盆と言います。

「盂蘭盆経」と言うお経の中には地獄(餓鬼道)に落ちて苦しむ母を救うために、僧侶のお経と「飯・百味・五果」などの馳走を棚にそなえ、その功德を以て救われたと説かれています。

地獄での苦しみは、まるで「逆さ吊りにされているような苦しみ(倒懸苦)」と言われ、この「倒懸苦」をインドの言葉で「ウラバーナ」と言います。「盂蘭盆・うらぼん」の語源です。

私が修行道場にいた頃も、4月15日から7月15日迄の3ヶ月を雨安居と言い、その終わりの日(7月15日)を「僧自恣の日」と呼び、寺院では「施餓鬼会」が行われます。お盆の行事はこの仏さまの教えが基になっています。

精霊棚

お盆は特別に「精霊棚」を飾ります。「精霊棚」は、仏間の縁側に掛けていました。

この棚を「施餓鬼棚」とも言います。和尚さんは「精霊棚」に向かって「お施餓鬼」のお経を唱えます。

今でも、お盆に和尚さんがお参りすることを「棚経」と言います。皆さんの中には、この「施餓鬼棚」でお迎えていた頃を覚えている人は有りませんか。

納屋の隅にこの「施餓鬼棚」がある家はありませんか。

お盆の正式な祀り方は、「施餓鬼棚(精霊棚)」を縁側に飾り付けるものでした。

生霊供

生霊供の材料とは、なすび・トウキビ・芋瓜・洗米など火を加えなくては食べられないものです。

これは、餓鬼道に落ちた者は、「食する物が全て火になる」と言われ、生米などの生の穀物を口にすると口元で火が加わりちょうど食べ頃になると言われるからです。

餓鬼はいつも口の中が燃えさかり、ノドが渇くとされています。水の力で「邪気洗い流す・水で炎を消す・水でノドの渇きを治める」ところから、精霊棚には水が注がれた大きな器が備えられて、水が散けるようになっています。

又、この水を「アカ(闍伽)」と言います。中国の言葉で「供養」と言う意味です。お墓に水を散くのもこうした理由があるからです。

お供え

お供えは、年忌法要の時と同じように「お霊供膳」・「団子」・「菓子」・「果物」・「茶」・「湯」・「水」と共に、特別に灯籠提灯に見立てて「灯籠菓子」・「ホウズキ」、又畑で採れた「なすび・カボチャ・トウモロコシ等々」をご先祖さまに感謝を込めてお供えします。

〈家族みんなで読みましょう〉

第6回 正定寺杯グラウンドゴルフ大会



昨年度優勝者選手宣誓（大畑記美代さん）

第六回正定寺杯グラウンドゴルフ大会が三月二十三日（月）直川苑グラウンドで開催されました。

前回優勝者の大畑記美代さんの選手宣誓で三十六選手が参加しました。

このグラウンドゴルフ大会は「春の彼岸会」に合わせて毎年開催されます。

参加者は春彼岸法要やご本山布教師さんのお説教にもお参りして、仏さまのご縁と健康を願う楽しい一日を過ごしました。

今回の優勝者は三浦伸一さん（大鶴）、準優勝は御手洗好子さん（椈ヶ原）、三位は古元聖人さん（竹の下）がそれぞれ獲得しました。



古元聖人さん・鴨尾利夫さん・飛田禮子さん
渡辺昭子さん・安藤健辞さん
吉田禮子さん



直川苑副施設長
城井 勉さんの歓迎挨拶



女性部部长
矢野侃可さんの挨拶



ホールインワン！！



鴨尾エイ子さん・竹下好子さん
岩切 初さん・岡田千壽子さん
小田木布子さん



大司八郎さん・矢野侃可さん・星野延子さん
小野房代さん・小野浩伸さん



平井文江さん・久保田美津江さん・尾形キミエさん
久保田キヨエさん・柳井順一郎さん・御手洗好子さん



甲斐水江さん・御手洗佐一さん・川野久美子さん
戸高茂子さん・山田佐一さん・小野波子さん

〈家族みんなで読みましょう〉



河野 林さん・竹尾トモ子さん・三浦伸一さん
岩切ケサ子さん・武田 守さん・山田牧江さん



小野幾夫さん・大畑記美代さん・矢野 薫さん
飛田照子さん・五十川キミエさん



◀優勝 三浦伸一さま



▲準優勝 御手洗好子さま



ナイス!ショット!



◀ホールインワン獲得者



▲3位 古元聖人さま

《正定寺花園会役員名簿》

花園会会長(檀徒総代) 甲斐 照光
 花園会役員(檀徒総代) 小野 永生
 花園会役員(檀徒総代) 御手洗晴視
 花園会役員(檀徒総代) 安藤 廣美
 花園会会計・事務局 村西 栄二
 花園会女性部部长(第二部女性部副部长) 甲斐久仁子
 花園会女性部副部长 安藤リヨ子
 花園会女性部副部长 川野久美子
 花園会女性部副部长 柳井久美子
 花園会青壮年部部长(第二部青壮年部副部长) 小田木聖孝

《正定寺花園会地区世話人名簿》

内水地区 戸高 浅生 椛杭地区 御手洗 哲
 岸の上地区 櫻井 孝 上の地区 植田 純市
 細川内地区 小野 浩伸 柚の原地区 染矢 博正
 黒岩地区 小野 力 大鶴地区 三浦 伸一
 羽木蟻地区 大竹 良一 神の原地区 尾形 利勝
 神栗地区 平井 均和 市屋敷地区 柳井 百人
 堂師地区 羽明 忠義 野の内地区 川野 貴重
 立長地区 立箱 和人 中道地区 安藤 慶喜
 吹原地区 山内 一平 久留須・新中豊 大司 八郎
 竹園地区 竹中 裕子 間庭・中津富地区 簀戸 精一
 江河内・道越地区 甲斐 龍太 尾浦地区 山本 春男
 旧佐伯地区 仲宮 哲男

花園会会計監査委員 御手洗 哲
 花園会会計監査委員 竹中 裕子
 花園会女性部会計監査委員 小野 宣子
 花園会女性部会計監査委員 柳井 政子

〈家族みんなで読みましょう〉

平成21年度 花園会世話人総会



花園会役員献茶会

六月十三日午後七時より総会に先立ち位牌堂で献茶法要を行い、ご先祖さまへ新茶を奉納。七時二十分から正定寺書院で「平成二十一年度花園会世話人総会」が開催されました。

新世話人さまをはじめ一月二十日の檀信徒総会で新任されました新旧総代さんと女性部・青壮年部の方々など一堂に会しての総会でした。

総会では「平成二十年度行事報告・会計報告」及び「平成二十一年度行事予定と予算等」が審議されました。

総会終了後は正定寺所有の宝物・什物など普段見ることのない古文書や掛け軸などの説明も行われました。



◀総会の様子



献茶会及び平成21年度花園会女性部総会



献茶会

六月十五日午後二時より位牌堂で献茶会が行われました。

約四十名の方々の参拜でご先祖さまへ新茶の奉納が行われました。

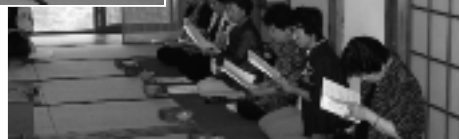
法要の後、正定寺書院で「平成二十一年度花園会女性部総会」が開催されました。

総会では「平成二十年度行事報告・会計報告」及び「平成二十一年度行事予定と予算」や役員改選も行われ新役員が決まりました。

総会終了後は正定寺所有の宝物・什物など普段見ることのない古文書や掛け軸などの説明も行われました。



什物説明を聞き入る女性部



総会の様子

〈家族みんなで読みましょう〉

平成21年 新春大般若会

恒例の「大般若会」が一月二十日に二百名超える参拜者で賑わいました。

「大般若」とは孫悟空をお伴に連れ、遙か天竺（インド）に経典を求めて旅をする三蔵法師。あの有名な西遊記は三蔵法師の徳を讃えた物語です。三蔵法師は、正しくは（玄奘三蔵法師）と云う中国の実在の人物です。

三蔵法師により伝えられた沢山の経典の中に、あの有名な《般若心経》の基になった「大般若波羅蜜多經六百卷」があります。法師が長い年月を費やして翻訳されたこの経典は、中国を初め日本でも古くから除災招福の功德があるとされています。

佐伯藩主・毛利伊勢守から賜った現在地に正定寺が再建された、元禄八年（一六九五）に第五世活門和尚が新春一月十六日に法要したのが始まりとされています。

現在は、一月二十日の大寒に行われ、三百年の間、厄除け法要として続いています。



大般若会



お接待



もち投げ

▼1等賞が当たった
安藤羊子さん



▲2等賞が当たった
小野マス子さん



〈家族みんなで読みましょう〉

檀信徒総会



簀戸 重郎さん 岸の上
 安藤ヒナ子さん 久留須
 岡田伊勢夫さん 柚の原
 柳井富美江さん 間
 島田 クリさん 月形
 竹中ミサオさん 竹の下
 柳井マチ江さん 市屋敷
 小野サツキさん 椀杭
 川股 宏さん 黒岩

本山から
米寿のお祝い



尾 岸の浦 尾浦 城南 市屋敷 神内 立長 吹原 尾浦 神内 川又 大鶴 尾浦 別府 椀杭 中津 内水 羽木 神奈川 椀杭
 佐脇まどかさん
 藤村 昌道さん
 大竹 信郎さん
 小野 由佳さん
 鳴海弘太郎さん
 飛田めぐみさん
 宮脇 雄太さん
 木下 姿穂さん
 久保田美世さん
 竹尾 摩也さん
 立箱 誠士さん
 鳴海 大樹さん
 山内 麻緒さん
 立箱 一樹さん
 松田 育美さん
 柳井 崇寿さん
 矢野 誠喜さん
 木下 直哉さん
 桜井 昌未さん
 鳴海 由乃さん

本山から
成人のお祝い

直川中学校バレーボール部が坐禅に挑戦



三月三十一日と四月十九日に直川中学校バレーボール部部員と保護者も参加して坐禅を行いました。約二時間の坐禅に挑戦しました。

妙心寺開山無相大師650年遠諱本山参拝者募集

- と き 10月7日（木）～10日（土）
- 募集人数 40名（正定寺） 3泊4日
- 旅 費 82,000円（法要費・記念品含む）
- 締め切り 9月10日（木）
- 日 程 1日目・・・佐伯～福岡空港～伊丹空港～奈良観光・・・橿原ロイヤルホテル泊
2日目・・・高野山～京都・・・京都国際ホテル
3日目・・・本山遠忌法要～大阪南港～・・・ダイヤモンドフェリー
4日目・・・大分港～佐伯
- 申 込 先 正定寺へ電話で申し込みください
○ご家族・ご親戚・お友達もお誘いください
○現地集合も出来ます
○旅費の支払いは9月末まで結構です

50年に一度の大法要
佐伯市から500名の募集
（正定寺よりあと25名！）

〈家族みんなで読みましょう〉

新旧総代のご挨拶

退任の挨拶

柳井 道則

この度、私は任期満了によりまして、総代を辞することになりました。一言、皆様方にお礼を申し上げます。

平成十五年に総代を仰せつかり、その間、位牌堂の改築・大和尚様の津送（葬儀）等大きな行事や多くの年間行事にも、檀信徒の皆様方のご理解と力強いご協力をいただきました。

心から感謝申し上げます。あつという間の六年間でございました。私達が総代をさせていたの間、様々な経験をさせて頂くことができました。中でも曾てない大和尚様の葬儀は私達には心に残る思い出となりました。

この様な機会を与えて頂き誠にありがとうございます。

今後は、すばらしい総代さんも決まり、正定寺及び檀信徒の皆さんのご多幸をお祈りして退任の挨拶と致します。本当にありがとうございます。

総代を辞するにあたって

柳井 孝義

昭和五十七年から二十七年間、菩提寺の総代をさせて頂いてきました。

当時は、「信心のない若い者が総代なんか」と一部の方々から声があがったと聞いています。当の本人も振り返るとその自覚はなく、時の流れのままに一期三年九期が過ぎてしまいました。その間、寿山和尚の晋山式、本堂大屋根修復、先代和尚の津送など貴重な経験をさせて頂いてきました。

総代としてお寺や檀家のみなさんに貢献できたとはとても思えませんが、大過なく終えることができました。とは嬉しく思います。

皆様、和尚様永い間ありがとうございました。そしてこれからも正定寺の一檀家としてよろしく願っています。

新任のご挨拶

御手洗晴視



青田を渡る風が快く感じられる今日この頃、皆様方には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私儀この度改選により正定寺檀信徒総代に選任されました。もとより浅学非才ではありますが皆様方のご意見やアドバイスを頂きながら公正無私を旨として努めて参りたいと思っております。

私の心に残る仏教との出会いは、インドネシアジャワ島の「ポロブドール遺跡」を見学する機会を得たことです。1814年ヨーロッパ人により発見された八世紀後半の造立と推定される天然の丘の上に安山岩をたたみ上げて作られたものです。

面積1万2千㎡・高さ31mの頂上には鐘型の塔をか

新任のご挨拶

安藤 廣美



ぶせた形の仏教大建造物です。壮大複雑な建築仏教物語図を浮彫にした回廊の中には、釈迦の母である摩耶夫人が六つの牙を持つ白象の夢を見て右脇腹から釈迦を懐妊した図が描かれています。

この世に生まれ修行してお悟りを開き広めていった様子を知ることが出来ました。

仏様のご縁を頂きながら今後とも皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

暑さ厳しきおり、檀信徒の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび正定寺総代会におきまして総代を仰せつかり、四月一日から勤めさせて頂いていただくことになりました。

まだまだ若輩で未熟な者ではございますが、ご住職はもとより先輩総代の方や檀信徒の方々のご指導ご協力を仰ぎながら護持の務めを果たして参りたいと思っておりますので、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

また、このたび退任されました二名の総代の方には、長年にわたりご苦労いただきました本当に有難うございました。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。



「駆け抜けた58年」

工藤 哲生

人はそれを余りにも早すぎる旅立ちという。

生前アナタは言っていました。

「人が逝く年齢は全て、見えない法則に従ったモノ、何歳で旅立ちとうがそれは運命…」だと。まさかアナタの身に思いがけない運命が振りかかるうとは。

生きて生きて逝ったアナタ…その時まで苦痛の表情、言葉が発することなく、最後まで強い人でした。

私たちには、突然訪れたと感じたその瞬間は、アナタには全て承知の事だったと、今思わずにはいられません。

だから4月皆で私の還暦と再出発のお祝いの企画をしたのですね…あれがアナタの最後の力だったと、これっぽっちも知らず、食事をするアナタを見てみんな喜んだのはいったい何だったのだろうか。

アナタは心の中で、何か大きなモノを抱えていたのですね…

それから一カ月後、十人の家族に見守られ、一筋の涙と共に静かに旅立ってもう二年が…

現実を正面から見据え、泣き言も言わず、ひたすら真っ直ぐ生きてきたアナタに「ありがとう」の言葉しか思い浮かばなかった。

あの日から、メディアで「私はこうしてガンを克服し」等々の記事を目にするたび、嘘だと思っ自分、ピョンクリボン運動もあの日から参加を止めました…

いま、みんな「一つの終わりは新しい一つの始まり」として、それぞれの環境のなかで生きています。

悲しみの中に身を置き、哀しみの中に氣力を失い、明日を望めない遺族であつてはならないと。超えなければならぬモノ、大切にしなければならぬモノを胸の中に納めて。

幸いみんな元気です。元気なら全て何とかなると…

どうぞ娘や孫たちに幸あれと応援してあげてください。

新陽院光雅恵愛大姉

工藤哲生 合掌



還暦祝いに家族みんなで（平成19年4月1日）

正定寺のホームページリニューアル syoji.com



この春から正定寺のホームページが新しくなりました。過去の寺報投稿文や境内・宝物歴史など更新されています。お子さん・お孫さんにお伝えして是非ご覧ください。

〈家族みんなで読みましょう〉